

科目名		福祉と建築							年度	2025
英語科目名		Welfare and Dwelling Environment							学期	後期
学科・学年		建築学科 1 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員		杉浦 文美	教員の実務経験		有	実務経験の職種		建築設計		
【科目の目的】										
・高齢者、障害者の立場に立った社会の仕組みを理解できる ・高齢者、障害者の立場に立った住まいの整備を理解できる ・高齢者、障害者の立場に立った街づくりの整備を理解できる ・建築における福祉の考え方を学び、福祉住環境コーディネーター検定試験の合格を目指す										
【科目の概要】										
高齢化社会そしてユニバーサル社会の観点から建築に携わることは、これからの社会において重要です。現在の福祉を取り巻く社会システムを理解し、いつまでも自立して生活するための住まいや街づくりの知識を身に着け設計に活かせる力を習得することを目的とする。										
【到達目標】										
A. 福祉を取り巻く環境整備や社会システムを理解している B. 高齢者の健康や障害者の自立支援などについて理解している C. バリアフリーやユニバーサルデザインについて理解している D. 安全・安心・快適な住まいの知識を理解している E. 安心できる街づくりの知識を理解している										
【授業の注意点】										
テキストと配布資料をよく理解し、予習・復習を行うこと。 なお、確認テストは欠席・未提出となると0点になるため注意が必要。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力					
到達目標 A	福祉を取り巻く環境整備や社会システムを理解している		福祉を取り巻く環境整備や社会システムを一部理解している		福祉を取り巻く環境整備や社会システムを理解できていない					
到達目標 B	高齢者の健康や障害者の自立支援について理解している		高齢者の健康や障害者の自立支援について一部理解している		高齢者の健康や障害者の自立支援について理解できていない					
到達目標 C	バリアフリーやユニバーサルデザインについて理解している		バリアフリーやユニバーサルデザインについて一部理解している		バリアフリーやユニバーサルデザインについて理解できていない					
到達目標 D	安全・安心・快適な住まいの知識を理解している		安全・安心・快適な住まいの知識を一部理解している		安全・安心・快適な住まいの知識を理解できていない					
到達目標 E	安心できる街づくりの知識を理解している		安心できる街づくりの知識を一部理解している		安心できる街づくりの知識を理解できていない					
【教科書】										
福祉住環境コーディネーター検定試験（3級公式テキスト）／東京都商工会議所 福祉住環境コーディネーター検定試験（3級過去問題集&実力テスト2023）／ハウジングエージェンシー										
【参考資料】										
配布プリント、模擬問題										
【成績の評価方法・評価基準】										
学期末に行う定期試験、授業中に実施する小テスト、試験結果等で評価する										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

